

日中国交正常化50周年記念 講演 2022.4.14.

今なぜ戦争なのか？
東アジアは平和と繁栄の基礎
戦争を起こさない

羽場 久美子

青山学院大学名誉教授

神奈川大学教授

グローバル国際関係研究所所長

世界国際関係学会 (ISA) アジア太平洋会長

ハーバード大学 客員研究員

目次

- ▶ 1. 日中国交回復 1972年9月 恒久平和を約束
▶ 現実、対立・戦争が始まってしまった。なぜ？
▶ → マクロな世界史的把握が必要！
- ▶ 2. **大きな転換の時代 先進国の衰退**
▶ → ライバル中国をつぶせ！
- ▶ 3. 第2次大戦 戦争は多数の死者 **死ぬのは市民**
- ▶ 4. ロシアのウクライナ侵攻。**なぜ起こったか？**
▶ NATOの拡大：アメリカの軍事力拡大、武器輸出
- ▶ 5. 日本列島、中国・ロシア・北朝鮮を封じ込める要塞。
▶ → **戦争に利用される可能性！**
- ▶ 6. **もし戦争が起こったら？** 北朝鮮核爆発で東アジア全滅！
- ▶ 7. 米中貿易戦争 背景：中国がアメリカ経済を追い抜かず！
- ▶ 8. そもそも**中国、インドは、古代から繁栄のセンター**
▶ 地域の協力と拡大。 今やIT/AI のセンター！

目次 2

- ▶ 9. **ロシア・ウクライナ戦争、台湾有事・中国封じ込めはつながっている！**
 - 武器の輸出、封じ込め
- ▶ 10. アメリカによる中国、ロシア封じ込め
 - ▶ ウクライナ軍事化、武器輸出は、2014年マイダン革命から
 - ▶ →2014年、香港でも起こるかもしれなかった
- ▶ 11. **封じ込め**、日米豪印同盟QUAD、米英豪AUKUS,
米英豪カナダニュージーランド Five Eyes
 - ▶ → 何重もの中国・ロシアの封じ込め（欧も参加）
- ▶ 12. **新冷戦か？2034 NATO欧州連合軍元最高司令官 米中戦争**
 - ▶ → この筋書きをロシアで実践：戦わずしてやっつける
 - ▶ → 次は中国で実践！ 中国北朝鮮vs韓国日本
- ▶ 13. **どうすればよいか？**
 - ▶ 1) **メディアと知識人、市民の協力**（今は完全に負けている）
 - ▶ 2) **戦争でなく、共同発展：地域の経済協力。戦争はしない。**
 - ▶ 3) **<アメリカは戦争をしない。互いに戦争をさせる>**
 - ▶ 国民と東アジアに多大な犠牲を負わせる、戦争はしない！
 - ▶ アジアは、**得意な経済と勤勉さで勝負する！**

日中国交回復50年

1. 1972年9月29日、当時の田中角栄首相と中国の周恩来首相は、北京で共同声明に署名

(1972年2月、ニクソン訪中、毛沢東と会談：背景に常にアメリカの影)

- ▶ 「恒久的な平和友好関係を確立する」
- ▶ 主権尊重、領土保全、相互不可侵
- ▶ 今逆のことが起こっている。

2. ロシアをたたきただけでは本質は見えない。

- 1) 背景をきちんと知る必要がある。
- 2) 戦争を止める。

戦争を拡大することを指示しない。→ 武器支援X

- 3) 停戦交渉と、経済発展で問題を解決

1. いま世界とアジアで何が起きているか？

1) パワーの転換、2) 自然災害、パンデミック、3) 紛争・対立・戦争

▶ 21世紀初頭、100年に一度の転換の時代

▶ 1) 9.11.2001. 同時多発テロ

▶ 2) 9.15. 2008. リーマン・ショック、2010-12 ユーロ金融危機

▶ 3) 3.11.2011. 東北災害—地震、原発事故 ★

▶ 4) コロナ・パンデミック (100年に1度の危機！)

▶ 5) アジア危機: 2018. 北朝鮮核ミサイル危機、

▶ 「中国脅威論、台湾有事」 中国の急激な成長

▶ 6) <米中対立先鋭化>—歴史の大転換→ <戦争か、平和か>

▶ 7) ロシア・ウクライナ危機→ 戦争は突然起こる。

★★ 背景に、アメリカの衰退、中国の拡大 緊張の高まり

— 変化にどう対応するか？—全く新しい時代。戦争か、平和か？

▶ できるだけ客観的に見る。メディアに踊らされない。

▶ 自分の頭で対処する、未来を見据える

2. 100年に一度の大転換の時代/ 戦争をさける → 始まってしまった。

- ▶ 21世紀初頭、100年に一度の転換の時代
- ▶ 欧米200年の世紀から、アジアの時代へ: 阻むアメリカ
- ▶ 1. 戦争: 20世紀: 戦争の世紀
 - ▶ WWI, WWII 欧米の勝利、アジアは植民地
 - ▶ 21世紀 米欧の衰退、アジアの成長 → 中国脅威論
- ▶ 2. パンデミック、スペイン風邪 — 若者の致死率が高い。
 - ▶ 世界4人に1人が感染、2000–5000万人が死亡 (WWI)
 - ▶ コロナ: 現在5億人感染 (6%)、690万人死亡 (現在)
 - ▶ 医療の発展が死者を抑えているが、戦争期の死者数。
- ▶ 3. 東アジアの緊張の高まり: 中国・インドの成長
- ▶ 4. ロシア・ウクライナ戦争: 早期の戦争終結を。アジアに飛び火させない

3. 第2次世界大戦終焉77年

- ▶ ナチ・ドイツのホロコースト — およそ600万人の死者
- ▶ 広島に原爆投下 — およそ14万人が死亡
- ▶ 長崎に原爆投下 — およそ6－9万人が死亡
- ▶
- ▶ **本土大空襲** 56万人が死亡、行方不明・負傷者、32,5万
- ▶ 損失家屋234万世帯(1家5人とする)と1170万人、全人口の16%)
- ▶ 東京大空襲— 10万人以上が死亡、**被災者100万人。**
- ▶ ★<人道に対する罪>—アメリカも裁かれるべき (東京裁判の際、インド、パール判事、アメリカに対して人道に対する罪を批判)
- ▶ 日本、強靱な力で、経済回復:70－90年代 Japan as No.1
- ▶ 戦争は、忘れた頃にやってくる。

4. 第2次世界大戦の死者数：ヨーロッパとアジア 最大の戦争被害国、ソ連・中国を排除して戦後が始まる。

欧州の死者 (万人)

★ソ連	2060-2660
ポーランド	560- 580
★ドイツ	430- 550
ユーゴスラヴィア	151- 170
イタリア	78
アメリカ	40.8-
★フランス	56.3
ルーマニア	50
ハンガリー	49
その他	

アメリカの死者数は、WWIIより、コロナの方が多い！

死者計 3215-3700万人 2倍>

アジアの死者 (万人)

★中国	1000
インドネシア	400
ヴェトナム	200
日本	230
韓国	20
ミャンマー	15
フィリピン	11

その他

- ▶ 欧州、アジアの死者数の2倍
- ▶ ソ連・中国だけで、3600万
- ▶ 死者のほとんどをソ連、中国が占めるが、この2国を排除して、戦後の体制が始まる。

死者計 1843-1900万人

8. ロシアのウクライナ侵攻、東アジアに 直接関連 <なぜ起こったか？>

- ▶ 1) **ロシアの安全保障観**
 - ▶ 自国の周りが、アメリカやNATOの軍事同盟に
 - ▶ 取り囲まれることを極度に警戒
- ▶ 2) **ウクライナ**: 国内が西と東に二分。ロシアの兄弟国
西はヨーロッパ意識。カトリック。東はロシア人が3割。
南とロシア国境: 軍事的要所と重工業地帯。
- ▶ 3) **NATO拡大**は30年で16カ国から30カ国**2倍に拡大**。
全て旧社会主義国がNATO加盟へ。

★ロシアの軍事侵攻は許されないが、**歴史的、社会的、
国際政治的な背景**は抑える必要がある。

5. ロシアの不凍港3か所(北:カリーニングラード 南:クリミア、東:ウラジオストク・北方領土)



6.ウクライナ:西部/東部/南部に分断—求心力弱い

西部:ヨーロッパ意識大、東部:新ロシア意識強かった

中部:多民族海運商業地帯(黒海での商業で活躍)



7. NATOの急速な拡大へのロシアの脅威 アメリカ、アフガニスタンから軍を撤兵。 ウクライナと東アジアへ移動。

ウクライナ問題とNATOの東方拡大

NATO

「北大西洋条約機構」
米国や西欧諸国を中心とした軍事同盟
冷戦後は旧ソ連含む東欧諸国も次々加盟

ソ連崩壊前の加盟国



1999年以降の加盟国



ウクライナ
NATOへの加盟を希望



アメリカ
ウクライナの主権を尊重

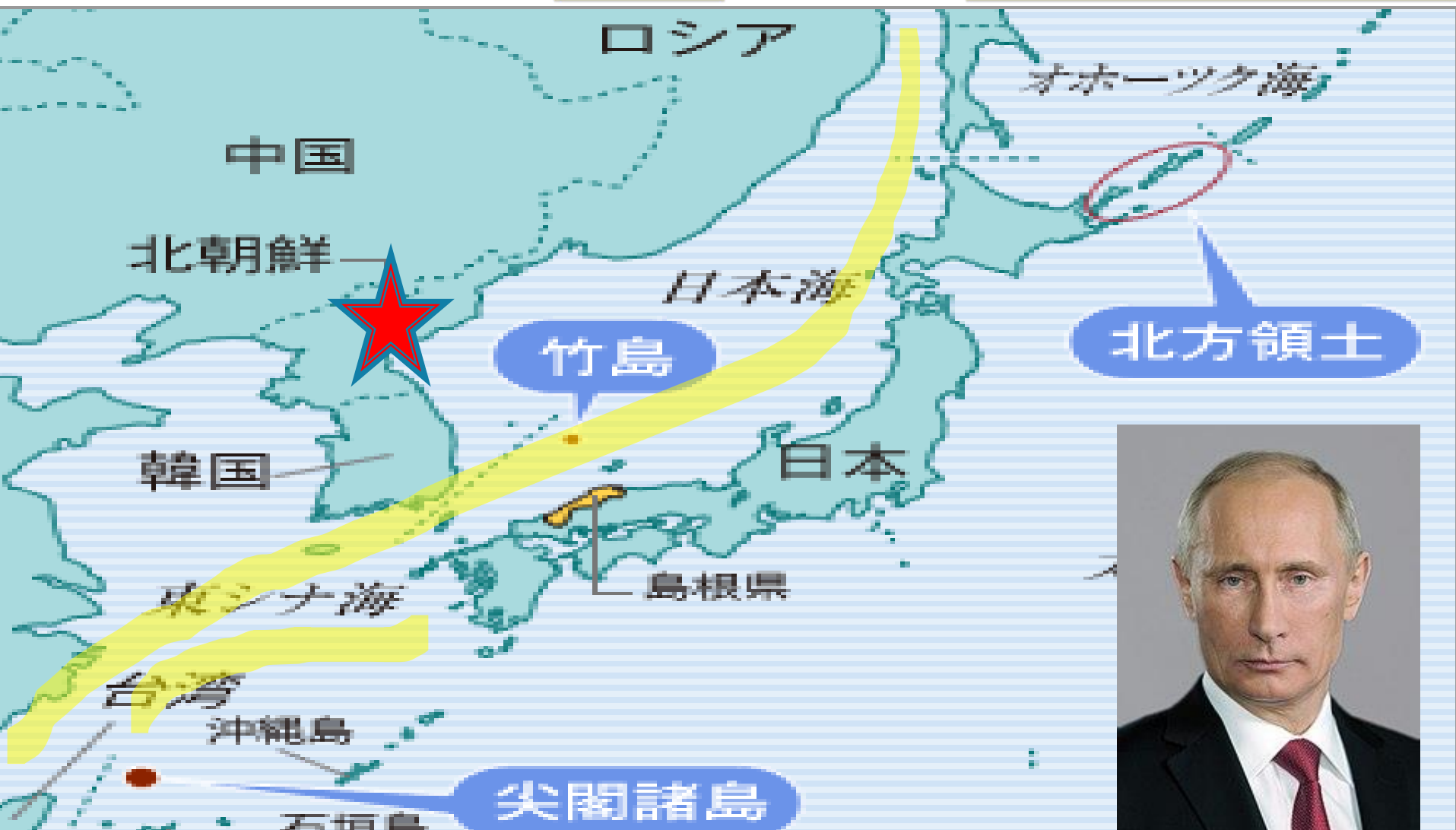


ロシア
NATO「不拡大」の
権約を要求

9. 東アジアでも同様の危機が、**北方領土とロシア、台湾・沖縄と中国**をめぐって起こる可能性がある。

背景1)領土対立、2)2010年:中国が日本を抜く。

力の対立と転換は**境界線**で起こる。**沖縄、台湾の軍事化**



10. <アメリカの存在>日本の地政学的位置

—3000キロにわたる大陸封じ込めの自然の要塞—

(ソ連・中国・朝鮮半島)を封じ込める 日本列島+沖縄・台湾

—アメリカにとって**最良の要塞、前線基地**

—(特に中国本土に近い**沖縄、台湾が前哨戦**)

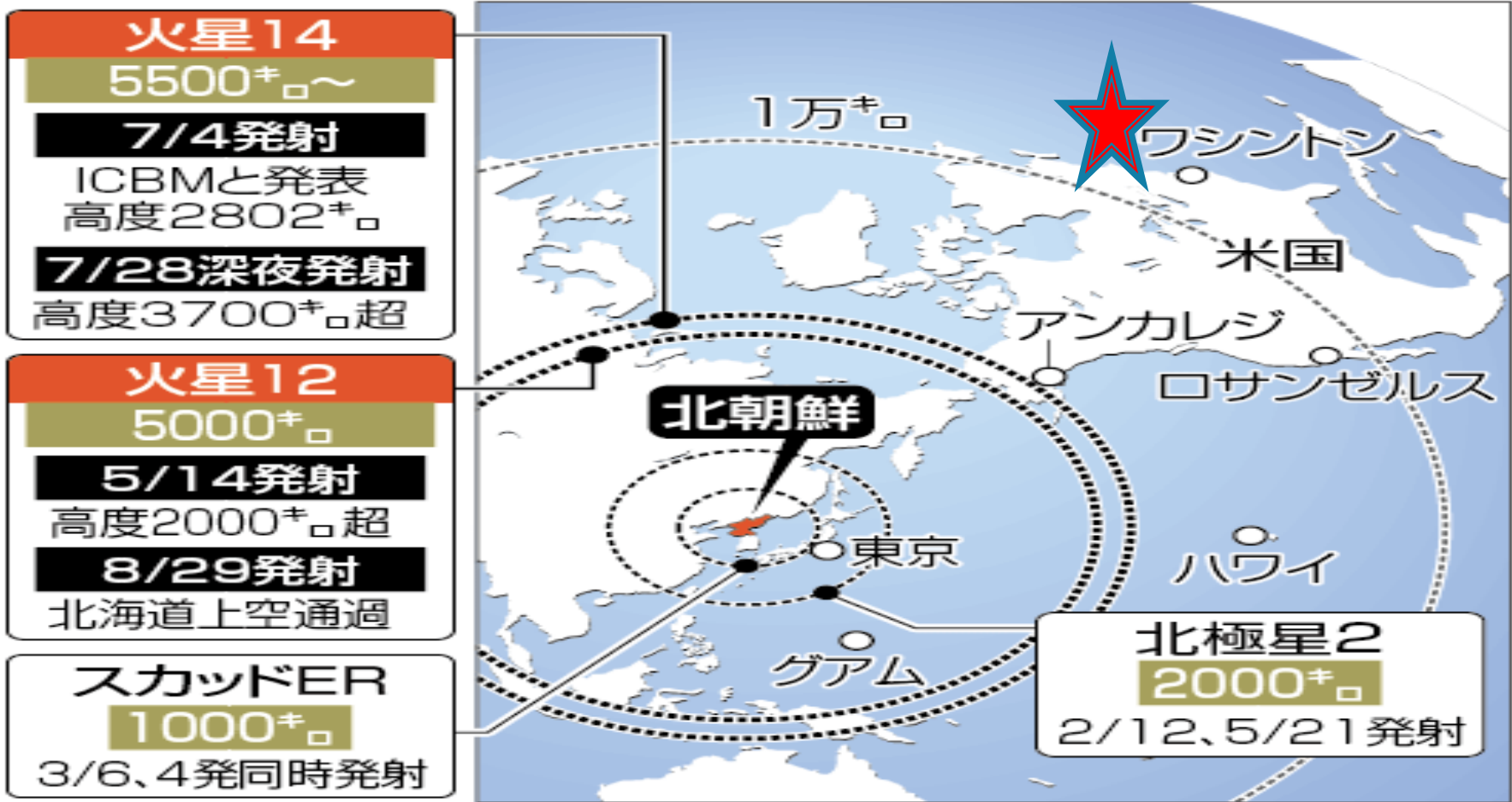
環日本海・東アジア陸国図



11. アメリカへの軍事的挑戦：北朝鮮からも： 2017. 11. 北朝鮮の長距離弾道ミサイル開発、 アメリカに到達距離 - 軍事発展で挑発

(時事ドットコム図)

北朝鮮の弾道ミサイル



(北朝鮮メディア、日韓両政府の発表による) 2022/4/15 15

13. 危機を乗り越えての共同-その後反故に。

南北朝鮮2018.3.6

トランプも板門店へ19.6.30



14. もし戦争が起こったら？

北朝鮮の核施設を爆破するだけで、東アジア沈没！日本も54基の原発(9基稼働)
もし、北朝鮮寧辺(ニョンビョン核施設)で核爆発—チェルノブイリの資料によれば、
30年後まで、1200kmの距離に影響：

朝鮮半島、北京、上海、日本全域がほぼすべて入る。＜東アジア経済圏壊滅＞

北朝鮮からの射程距離

2013-04-04 chizu25, (updated: 2017-08-30)

北朝鮮の常套手段、海軍隊外支がエスカレートして寧辺(ヨンビョン Yongbyon)の原子炉再稼働へ建設作業を開始した(36north.org)とか。

くわえて日本海側にミサイル配備の動きがあるとか。
咸興北道・舞水砲臺(ムスダンリ)からの射程まとめ

黄色のマーカーをドラッグ、円の半径 = **1208.83 km**



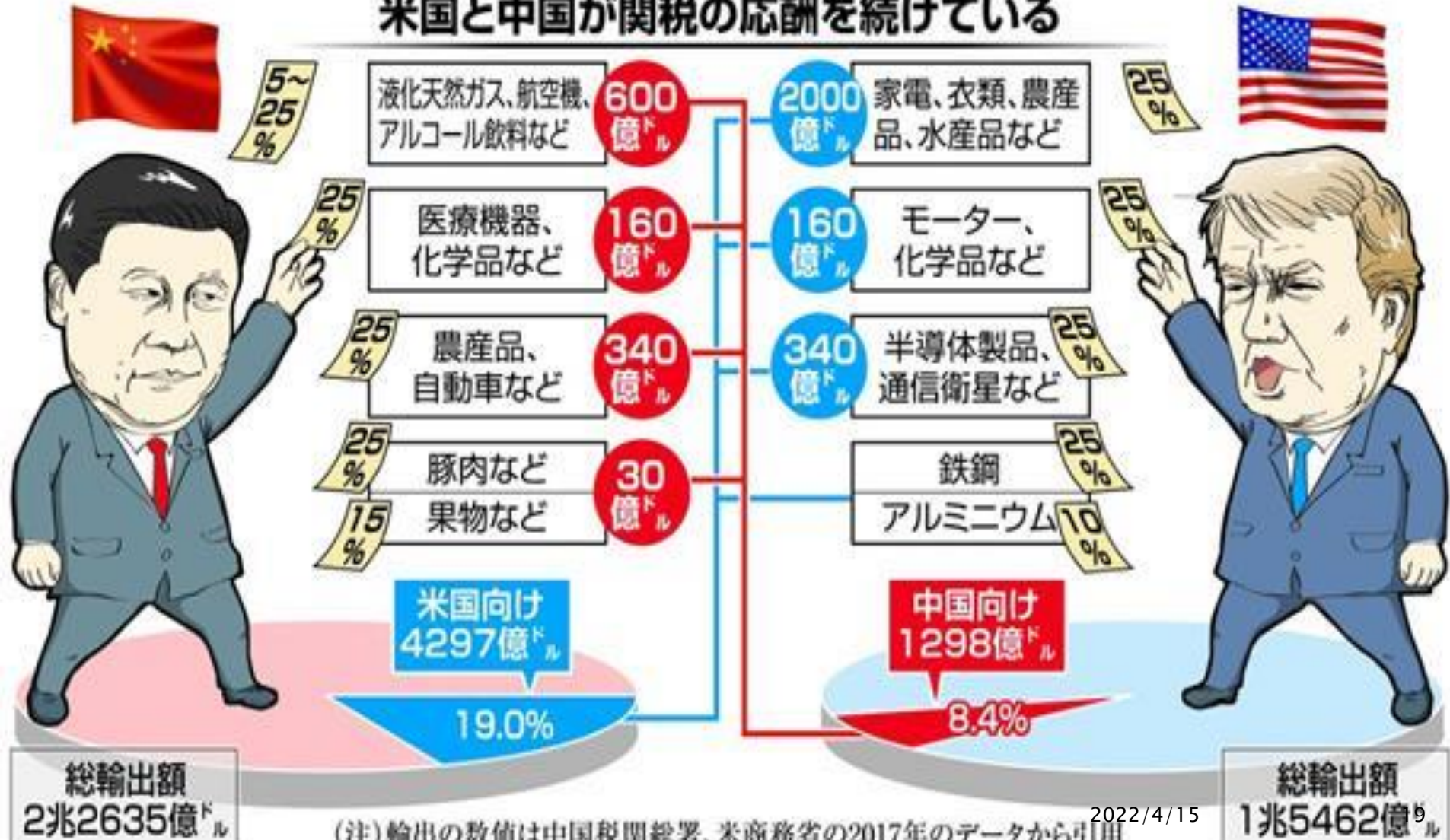
15. 東アジアの緊張: 背景に、北朝鮮ミサイルと、米中貿易戦争 <戦争か、対話か、圧力か>

- ▶ 1. 北朝鮮の核開発、ICBM(大陸間弾道弾)開発 2017.11
▶ <核爆発の危機>、東アジア経済圏全滅、米国も打撃か?
- ▶ 2. トランプ: 先制攻撃→(一転)米朝会談へ 2018.3-6
▶ ICBMを米本土に発射させない。
- ▶ 3. トランプ「米中貿易戦争」: 25%の関税の応酬 2018.8-
▶ 中国への揺さぶり
- ▶ 4. バイデン政権、同盟国の共同: 日本・欧州にも軍事共有
 - 1) 軍事費増大要請(イージス艦: 地对空ミサイル): 危険性も増大
 - 2) 武器購入・武器増強(ウクライナと近似した状況)
ロシア・中国国境に軍備増大。
同盟国、警戒していた → アジアとの経済連携へ
プーチンのウクライナ侵攻で 大転換
武器購入、軍備増強をやめる。

16.米中貿易戦争—関税の応酬

(The Sankei News, 2018/8/19)

米国と中国が関税の応酬を続けている



(注) 輸出の数値は中国税関総署、米商務省の2017年のデータから引用

17. 背景には何があったか？

1. アメリカの衰退, 2. 東アジアの成長, 3. 先進国格差の拡大

- ▶ 1. <アメリカ経済の頭打ち → 中国経済の成長>
- ▶ 2. 中国、インド、ASEANの成長：一帯一路、ロシア、ユーラシア経済連合の脅威
- ▶ 3. Globalization と格差の拡大
 - ▶ 一移民・難民、ナショナリズムの成長
- ▶ 4. 戦争の危機をさけるには？
 - ▶ ★<東アジアで戦争をさせない> → 中国、韓国の危機感
 - ▶ 日本一戦争になればアメリカが守る(甘い) →
 - ▶ 一アメリカは、東アジアでも、代理戦争をさせようとしている
(自身は戦争をしない)

18. 経済的背景:世界経済の変化:日欧経済の頭打ち、中国2010年に日本を抜く。2019年,3倍 表1. 世界の GDP 2010/2019. (世界銀行)

	2010	2019	
(World Bank) (billion dollars)			Regional Level
World	62,909	8,7552	Sum of Asian Region (by author)
The EU	16,282	18,700→15,900	▽
1 The US	14,582	21,433	<日中韓>US 21456, ASEAN+3(CJK)
2 China	5,879	14,731	↑
3 Japan	5,498	5,079	↓ ASEAN3.2+日中韓21.4=24.6>アメリカを凌ぐ
4 Germany	3,310	3,861	
5 India	1,729	2,868	↑
6 The UK	2,246	2,830	
7 France	2,560	2,715	
8 Italy	2,051	2,001	
9 Brazil	2,088	1,839	
10 Canada	1,574	1,738	
11 Russia	1,480	1,702	
12 Korea	1,155	1,646	



21.4 米 欧 15.9 ↓

経済ではEUは敗北
ゆえにアジアと連携

19. 2019. PPP ベースのGDP: 2014年に、中国はアメリカを抜いた
 ★イギリス、フランスはインドネシア(ASEAN, BRICS)に抜かれる (IMF)

位	PPPベース	国名	2019年(10億ドル)
—		世界	134,556
—		EU欧州連合 ↓	16,220
	中国・アメリカは	日本の4倍	
1		中国 ★ ↑	23,393
2		アメリカ	21,433
3		インド ★ ↑	9,542
4		日本	5,450
5		ドイツ	4,672
6		米 欧	ロシア ★ ↑
7	米、欧日インドに働きかけ	インドネシア ↑	3,331
8		イギリス	3,254
9		フランス	3,228
10		ブラジル★	3,222
11		イタリア	2,665
12		メキシコ	2,625

20.世界の経済成長率 2016 IMF2017.4

- ▶ 1. ナウル 10.3%
- ▶ 2. イラク 10.0%
- ▶ 3. エチオピア 8.0%
- ▶ 4. ウズベキスタン 7.8%
- ▶ 5. コートジボワール 7.5%
- ▶ 6. アイスランド 7.2%
- ▶ 7. カンボジア 7.0%
- ▶ 8. ラオス 6.9%
- ▶ 9. バングラデシュ 6.9%
- ▶ 10. タジキスタン 6.9%
- ▶ 11. フィリピン 6.8%
- ▶ 12. **インド 6.8%**
- ▶ 13. **中国 6.7%**

これが10年続けば新興国と先進国は転換

128. イギリス 1.8% ↓

129. ドイツ 1.8%

131. アメリカ 1.6% ↓

/

148. フランス 1.23% ↓

/

155. 日本 ★ 0.999% ↓

/

169. ロシア -0.225% ↑

189. 南スーダン -13.8%

190. ベネズエラ -18.0%

(190か国)

21世紀の新自由主義(Globalization)

競争と格差を生む

- ▶ 1. 格差の拡大、中産層の没落、特に先進国経済の頭打ち、皮肉なことに、途上国の急成長を生む。
- ▶ 2. すでに中国は、日本のGDPを2010年に追い越し、2014年にはアメリカのPPPベースのGDPをも追い越す。
- ▶ 中国、すでに日本の3倍のGDP。2030年代には世界一(世銀、IMF)

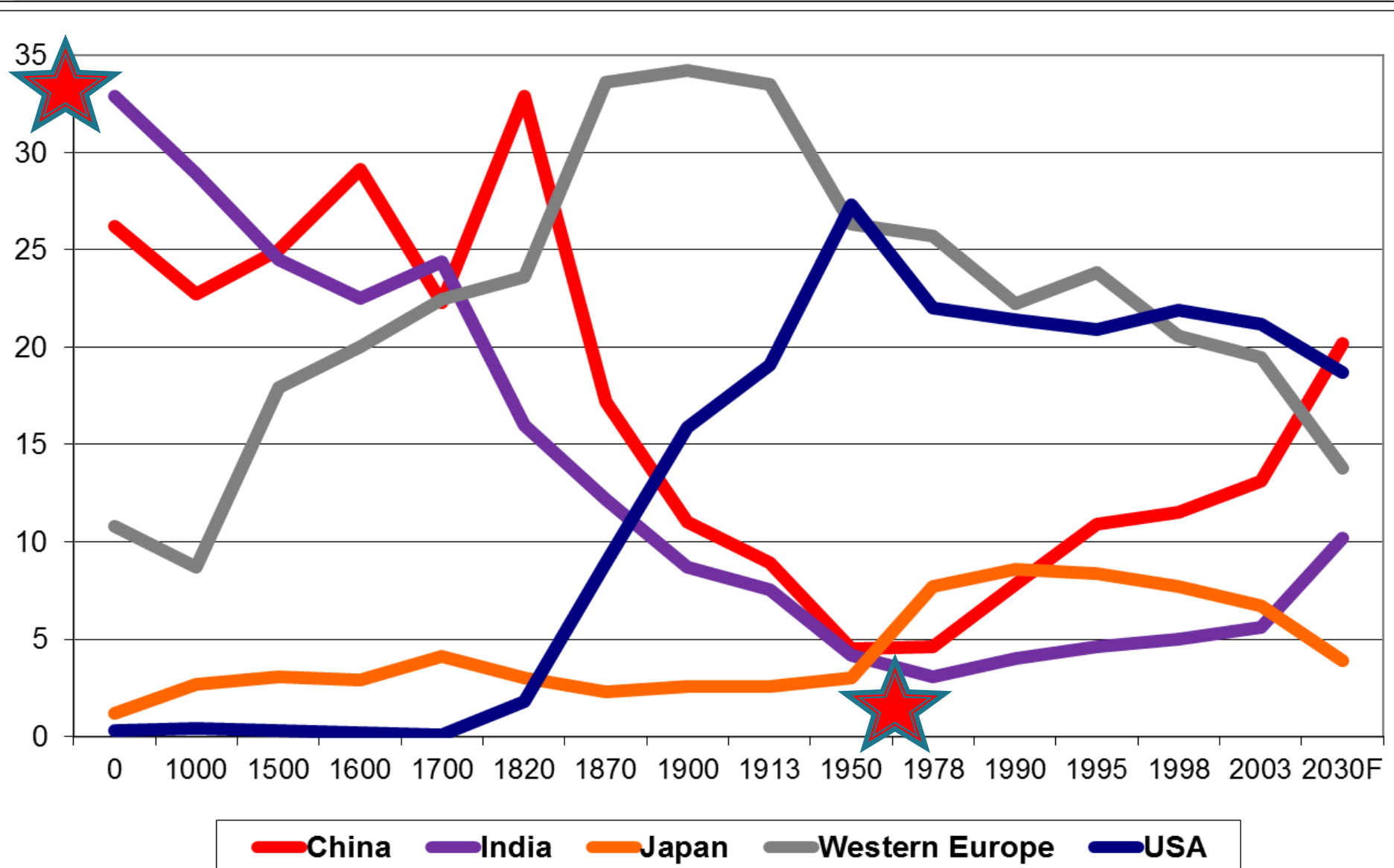
米:トランプによる、経済Deal :中国の抑え込み、米中貿易戦争
バイデンも中国封じ込め継続

IMFや世銀、OECD、中国、インドが世界1, 2位になることを予言

米中貿易戦争により打撃を受けるのはアメリカ経済と消費者
いまや、中国を含む世界経済は密接に結びついている。

21. Angus Maddisonの経済統計:

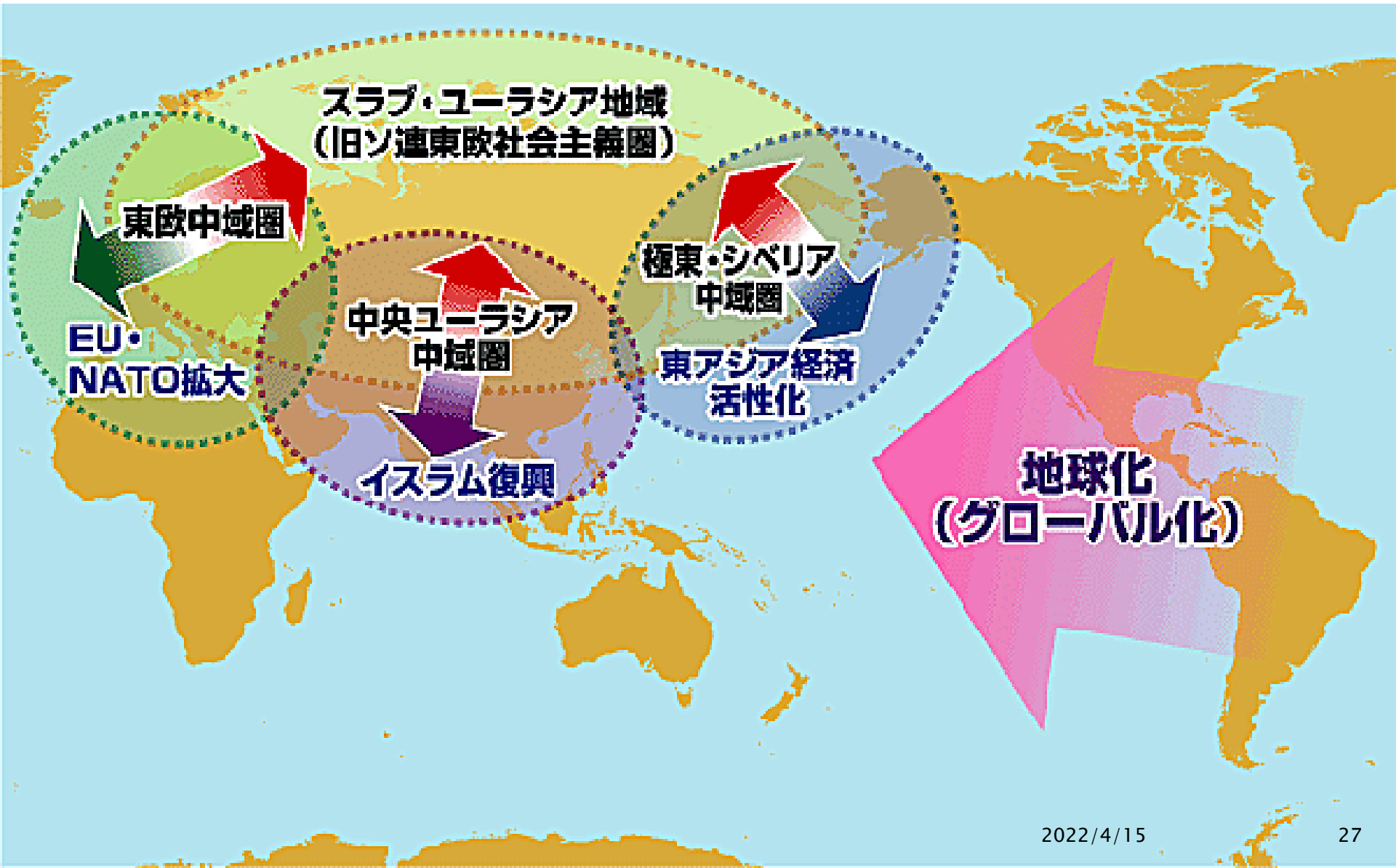
世界のGDP西暦0-2030 1820年まではアジアの時代
 欧米近代は200年！ 植民地:軍事支配が終わると中印アジアの成長



22.米英: 自国ファースト(内向き) vs 中国の経済拡大・地域協力: 中国百年インフラ投資計画: 一帯一路(陸、海、北極圏—3連の首飾り)



23. ロシアも同様の地域構想：ユーラシア大陸に スラブ・ユーラシア連合（北極圏含む）—地球を組織化。



24. 北極海航路:地球温暖化で北極の氷が解け、北極海航路が実現 (南回りより10日短縮3/4) 米、グリーンランド購入働きかけ



25. 北極海航路—新たな21世紀の航路

- ▶ 地球温暖化、北極海の海氷面積、約3分の2に減少
- ▶ 2050年までに、夏季の北極海の氷がほぼ消失する？
- ▶ (地球寒冷化の予測もあり)
- ▶ <環境保全のルール作り>
- ▶ 北極評議会(AC)や国際海事機関(IMO)の主導
- ▶ 北極海航路、スエズ運河と比べて1/4割減の航路
- ▶ 北極に関する国際的ルール作り、**多国間協力枠組み**の拡大
- ▶ ロシア、中国、日本のリーダーシップが問われている。
- ▶ 総合海洋政策本部「我が国の北極政策」2015年10月

26.中国、インドにおけるIT産業の成長:

Hua Wei: ITユーザー人口: 米3億vs中国10億、
インド6億(そのままサイバー、軍事へ)

<IT/AIで、アメリカが中国に抜かされる→Hua Wei締め出し>

- ▶ 5G 世界最先端(違い:アメリカは情報収集を軍に限定)
- ▶ 情報収集、スパイ活動。中国は民間に転用:5Gを庶民に。
- ▶ アメリカ、ファーウェイ排除;日本、オーストラリア同調。
- ▶ → コロナ禍の中、欧州もファーウェイ排除に協力。
- ▶ 中国、さらに4000億ドルをハイテク技術に投入、
- ▶ アメリカは、240億ドル。
- ▶ 2019年12月アメリカBostonでの国際会議
- ▶ 中国から→ロシアにハイテク軍事技術を輸出。

27. 沖縄基地武装、台湾有事、

ロシア・ウクライナ戦争、台湾有事・中国封じ込めは繋がっている！ 米による軍事化

- ▶ 1. 沖縄軍事化
- ▶ 2021年、自衛隊・米軍の郡司演習、武装配備
- ▶ 2. 台湾有事： 米国からイージス艦やF-16シリーズ戦闘機を購入、武装化：2013. 中国「六場戦争（六つの戦争）」計画によれば、中国は2020年から2025年にかけて台湾、2028年から2030年にかけてベトナムとの戦争で南沙諸島、2035年から2040年にかけて南チベット（アルナーチャル・プラデーシュ州）インドと戦争、2040年から2045年にかけて尖閣諸島と沖縄、2045年から2050年にかけて外蒙古（モンゴル国）、2055年から2060年にかけてロシア帝国が清朝から奪った160万平方キロメートルの土地（外満州、江東六十四屯、パミール高原）を取り戻して国土を回復。？
- ▶ 3. 2022. 3.22. ロシア、北方領土、平和条約交渉中断。制裁と「非友好」に反発。

28. 背景：アメリカによるロシア・中国 「封じ込め」

バイデンは、トランプ政権の経済政策は踏襲しない：中国経済への歩み寄り

他方、安全保障状況については、「中国封じ込め」戦略（共和党の取り込み）

トランプ：中距離核の拡大を合意

アメリカに届かない形で、地域紛争に核を用いる戦略
＜東アジアが戦場に＞

東アジアで戦争が起これば日本は最前線！

アメリカが日本を守るのではない、日本がアメリカを守る構図（地図14p、No.10）

★先日、アメリカの大学での沖縄米軍基地の研究会では、「北朝鮮の中距離ミサイルは、日本：東京が標的、アメリカには届かない」と発言する研究者も。

29. アメリカのインド太平洋戦略、 QUAD, QUADプラス、AUKUSの問題点

- ▶ バイデン政権：安全保障面では封じ込めを促進
- ▶ QUAD（日米豪印4か国戦略対話）—中国にくさび
- ▶ 安倍首相が提唱、トランプが実質化：2018年頃から強化
- ▶ 2020. 8. <QUAD +> 韓国、ベトナム、ニュージーランド、台湾を追加（東アジア版NATOを構想）（中国・ロシア・北朝鮮を封じ込め）
- ▶ ★ 欧州、日本は必ずしも同調しているわけではない
- ▶ （背景、：米欧、コロナ禍で経済がさらに悪化、安全保障と経済を分ける。—中国経済との連携：経団連、中小企業：日本商工会議所の要請）

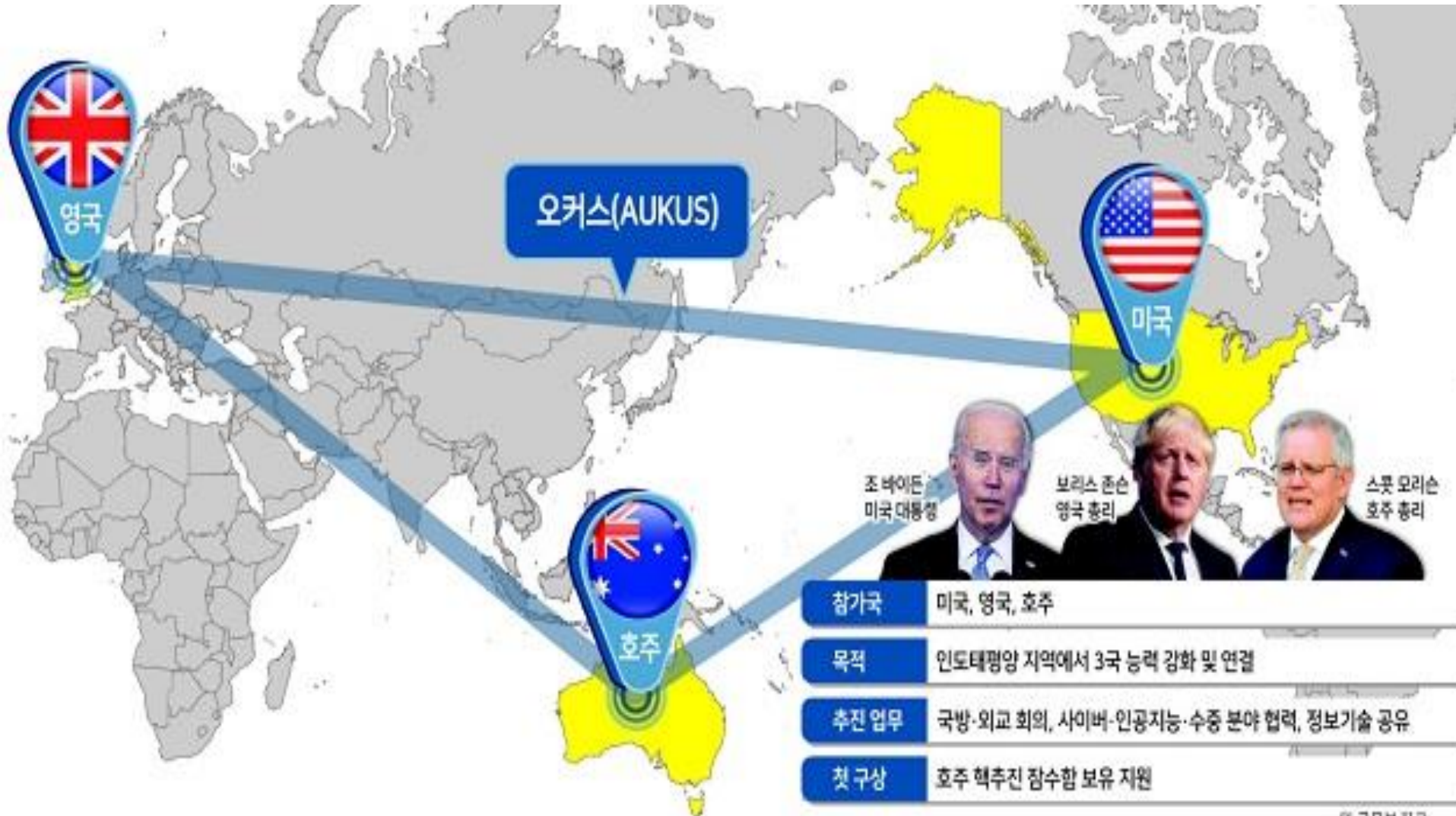
30. QUAD (中国封じ込め同盟) インドは警戒



クアッド関連協議はいかに進められてきたか

2015年 4月	米日同盟、中国の浮上に対応する「グローバル同盟」に拡大	2018年 1月	インドのニューデリーで「クアッド」軍当局者会談
2016年 8月	安倍首相、自由で開かれたインド太平洋を初めて言及	2019年 6月	米国防総省、インド太平洋戦略を公式化
2017年 11月	米日首脳会談で「インド太平洋を自由で開かれた空間に。同意する諸国と協力し、重層的な関係を構築」	9月	米国のニューヨークで初の「クアッド」外相会議
12月	米国、中国を「戦略的競争相手」と捉える国家安保戦略(NSS)	2020年 8月	ビーガン副長官、「クアッド」を東アジア版北大西洋条約機構(NATO)にする構想について言及

31.AUKUS:US, UK, AU의 3국IT·軍事同盟: 바이덴·ジョンソン·모리슨 Wow! Korea



32. AUKUSと、フランス：反中国軍事網



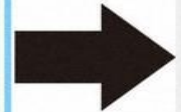
※写真はA P
インド太平洋地域を巡る構図



激怒



対抗



中国



習近平
国家主席

33.新冷戦か？：米中戦争のシナリオ

2034：この筋書き通りをロシアで予行演習

- ▶ アメリカのNATO軍 元最高司令官、スタヴリディス
- ▶ 『2034』米中核戦争をテーマとした小説
- ▶ 3つのレッドライン
- ▶ 1. 尖閣諸島、2. 南シナ海、3. 台湾
- ▶ 米海軍「自由航行を守る」「価値の同盟：自由、民主主義」
- ▶ <米中戦争を回避する？！ アメリカのシナリオ>
- ▶ 1. 中国が勝てると思わないよう、米国の軍事力を強化
- ▶ 2. 中国は同盟国がない。アメリカには日本・オセアニア・ASEAN/インドの同盟強化？
- ▶ 3. 台湾・尖閣を攻撃すれば大規模な経済制裁：中国経済のデカップリング（自国経済に有利になり、相手経済をつぶす）
- ▶ ★ ロシアに対して、ウクライナで実行
- ▶ アメリカは、「武器輸出、エネルギー制裁、政治立て直し」で、戦争は全面利益

34. バイデン、6月のG7で、コロナ後に対し 「価値の同盟」主張（民主主義 vs 専制政治）

- ▶ 明らかに、中国、ロシアの封じ込め、ウクライナ、沖縄、台湾に武器輸出： 欧州、日本、戸惑い
- ▶ 東アジアが中東に代わって、米中対立の最前線になる。
- ▶ 1. 米と同盟を組み「新冷戦」をもたらすのか、あるいは、
- ▶ 2. 米欧のアジアの覇権に乗らない時代を作れるか？
- ▶ 1は、アジアでの緊張と対立を招く。
- ▶ 欧州、日本、ASEANは、米中対立に際し、
- ▶ アメリカの側につくのか、
- ▶ 中国との経済関係を維持するのか？ 双方を取ることはできる
- ▶ → バイデンは、21世紀の新しい価値をリードし、中国を封じ込めようとするが、うまくいかない。
- ▶ そこに、ロシアのウクライナ侵攻 → まずはロシアからつぶす。
- ▶ **ロシア・ウクライナ戦争**
- ▶ → 軍、経済、政治全てで、米に利益。米国の価値回復。

But, 米・日・韓vs中国・ロシア・北朝鮮 / 保守の同盟
<東アジアの政治経済をリードするのは誰か？>
米、ウクライナ危機で、息を吹き返す。 QUAD, AUKUS
のアジア進行を阻止できるか？



36. どうすればよいのか？

ウクライナ危機 に乗じた、東アジアの軍事化を許さない —全体として保守化、ナショナル化—

背景を知る。地域の軍事化を許さない。

1) メディアと、平和を願う知識人、市民の連携が不可欠:いまは逆。

メディアと、戦争継続・軍事力拡大の知識人・市民が連携

2) 軍事化でなく、対話により戦争を止める

参議院議員選挙と抱き合わせの憲法改正国民投票を止める。 広範な国民の平和の願い

3) 経済、AIIB-ADB、RCEP, TPPを進める。

2. 政治、対立国との地域対話を調整。環日本海の重要性:

1) 日中国交回復50年

2) 沖縄復帰50年を、近隣国との友好と平和で実現。

▶ →北朝鮮、中国、韓国との対話を開始、実践 (まず韓国か?)

▶ 日本はどうする?—北との対話、韓国・中国・ロシアとの対話

▶ 中国、ロシア、韓国、隣国関係を最重視。

▶ 自国利害に限らず、大局的な話し合い必要。

3. 安全保障★日米同盟(1万キロ先)のみならず

隣国、中国、ロシア、北朝鮮との対話のパイプを。

多国間地域協力枠組みをアジアにも!

37. 力の転換は必然的に戦争を呼ぶ。

—我々は歴史に学べるのか？

- ▶ 中国が経済レベルで、日本を追いこし、アメリカを追いこす過程で、**摩擦・戦争が起こる。**
 - ▶ **アメリカは、自国のGDPの6割を超えるとたたく：(朱建栄)**
 - ▶ **1990s—Japan Bashing、2014—21—China Bashing**
 - ▶ ロシア・ウクライナ型の、**東アジアの局地戦争は起こりうる。**
- <米中貿易戦争>、<中国封じ込め> QUAD・AUKUSも拡大；
重要なことは、**戦争の危険を止め、安定と繁栄を維持すること。****
- ▶ **21世紀の新秩序構想を、アジア・米・欧の連携で作る。**
 - ▶ **<国民レベル,NGOレベルでの連携が重要>**
 - ▶ **対話と地域の協力枠組みを、政府のみならず、アジアの市民、
大学、若者・地域の共同により実現**

38.戦争を仕掛けるのは中国か、アメリカか？ どちらが先でも、日本は最前線。

- ▶ **1、中国：ロシアの教訓。**
- ▶ **中国から戦争を仕掛けない。仕掛ければ国際的孤立。；台湾軍事侵攻はやってはならない：このままいけば近い将来、経済力でアメリカを追い越す。軍事力で戦争を仕掛けるメリットは無い**
- ▶ **2. 戦争を仕掛けるのはアメリカか？ アメリカも戦わない。**
- ▶ **But偶発的に仕掛けられた戦争を、中国は買う可能性あり**
- ▶ **アメリカが目指すのは代理戦争：中国vs台湾・日本**
- ▶ **★米中戦争の最前線は、日本と台湾。東アジアでの限定核戦争、起こりうる。★アメリカ・イギリスの戦争戦略—「ミュンヘン会談」**
- ▶ **1938：英独仏イタリアの首脳会談→英仏伊は、戦わずして**
- ▶ **ドイツの攻撃を西でなく東（ソ連）に向かわせた**
- ▶ **★「敵同士を戦争させる」→ 東アジアで、アジア人同士の戦争（日韓が、中国北朝鮮に対決）**
- ▶ **アメリカは被害を被らない傍観者、東アジア経済の停滞も目的。**

39. おわりに:封じ込め、戦争でなく共同発展

米、バイデン政権の安全保障戦略:

アメリカ、経済・技術力・影響力において、トップの座から衰退、

その前に、中国を同盟で「封じ込め」、追い落とそうとする

アメリカ1国では無理、同盟国を巻き込み、中国封じ込め

アジアでアジア人同士を戦わせる戦略。(アメリカは戦わない。代理戦争)

日本の役割:「米中をつなぐブリッジであるべき」。岸田政権に期待。

1) 日中国交回復50年、2) 沖縄返還50年、3) 広島・長崎の教訓77年。

巨大な中国、ロシア、北朝鮮3カ国に対し、一国で対応するのは極めて危険・

日本の利益とならない。日本は、中国インドASEANなど、アジア諸国と結び、

ウクライナ紛争も調停しつつ、アジアの経済発展を支えリードすべきCEP, CPTPP

日本は、戦時期の特攻精神でなく、戦後の高度成長を担った

勤勉さや技術的先進性で、世界を平和的にリードしていくべき。

局地核戦争は、日本に再び核の雨を降らせる。(イージス艦は、たとえ核ミサイルを打ち落としても核の残骸が広範に自国に振ってくる。アメリカは安泰)

＜アジア限定戦争は、アジアの経済発展を押しとどめアメリカを回復させる＞

アジアの経済力、共同の発展と繁栄により、コロナ後、ウクライナ後の世界をリードすべき。市民の力が必要。市民の結束により、アジアでの代理戦争を止める。

(ご清時をいばるゝごいすも)

40. 参考文献

- ▶ Angus Maddison, *Contours of the world Economy, 1–2030 AD; Essays in Macroeconomic History*, Oxford University Press, September 2007
- ▶ Angus Maddison, *Chinese Economic Performance in the Long Run, 960–2030*, OECD, Paris, October 2007
- ▶ Alvin Toffler, *Power Shift; Knowledge, Wealth, and Violence at the Edge of the 21st century*, 1990.
- ▶ グレアム・アリソン『米中戦争前夜』ダイヤモンド社、2017.
- ▶ グレンコ・アンドリー『NATOの教訓』PHP新書、2021.
- ▶ 『学術の動向』特集1、アジア近隣諸国との対立を超えて。2020.9月号
- ▶ 羽場久美子編『21世紀 大転換期の国際社会—いま何が起きているのか?』法律文化社、2019.
- ▶ 羽場久美子編『アジアの地域統合を考える—戦争をさけるために』2017
- ▶ 羽場久美子編『アジアの地域協力—危機をどう乗り切るか』、2018
- ▶ 羽場久美子編『アジアの地域共同—未来のために』明石書店、2018
- ▶ 羽場久美子『拡大ヨーロッパの挑戦—アメリカに並ぶパワーとなるか』中公新書、2014
- ▶ 羽場久美子『ヨーロッパの分断と統合—EUのナショナリズムと境界線—包摂か排除か』中央公論新社、2016
- ▶ 羽場久美子「パワーシフト—国家不安、領土紛争とゼノフォビア」『学術の動向』2014年1月
- ▶ 羽場久美子『グローバル時代のアジア地域統合』岩波ブックレット、2012.2
- ▶ Kumiko Haba, Japan–China Reconciliation is key to Unified Asia, *International Herald Tribune (Herald Asahi)*, 16 January 2010.